

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム市民公開講座
 石川県がん診療連携協議会県民公開講座
 第5回 がん患者大集会金沢集會
 金沢大学がん研究所県民公開セミナー

がん患者大集合 ~がん撲滅に向けて~

北陸がんプロフェッショナル養成プログラムなどの市民公開講座「がん患者大集合~がん撲滅に向けて~」は8月29日、金沢市文化ホールで開催されました。11月8日に国立がんセンターを主会場に全国約20の医療機関で開催される「第5回がん患者大集会」のプレイベントを兼ねた同講座では、ジャーナリストでNPO法人がん患者団体支援機構理事長の鳥越俊太郎氏が特別講演で自身の闘病体験を語ったほか、石川県内のがん診療連携拠点病院の医師らが、がん撲滅に向けた診療体制の充実について説明しました。

特別講演「私のがん治療体験から」

【講師】鳥越俊太郎氏 NPO法人癌患者団体支援機構理事 ジャーナリスト

今、日本で最も多い死因はがんです。その数は年間約32万人にものぼり、日本人の3人に1人はがんにならざるを得ない身近な病気になってきています。

そんな誰もが発症する可能性のあるがんに対して、私自身は無縁だと信じ切っていた。まだパソコンがなかった頃、パソコンで検索していたら、「がんは怖い病気」という言葉を耳にした。それ以来、がんについて少しずつ知識を積み重ねてきました。

私はがんを直接経験すること、診療室で医師から重く告げられるというショックを経験することなく、がんに向き合ってきた。また、

に五年の秋には肝臓への転移が見つかり、今年2月に胆管癌と肝臓の一部を摘出した。四度の手術を経た私は、今やベテランがん患者です。そして、がんにかかると後大きな変化がありました。まず、がん患者であることを公表してから、新しい仕事が増えて、明るく前向きな姿勢でいることができ、免疫力が高まっている気がします。

4度の手術も明るく前向きに

手術は、おなかを小さく穴を複数開け、そこから腹腔鏡と切開を挿入して癌を摘出する腹腔鏡下切開術という方法で、1日入院3・5日ほどの腫瘍を摘出し、「われわれ」と思いつつ退院したのが5年10月でした。

しかし、翌年の秋に左肺への転移が見つかり、07年1月に胸腔鏡下切開術を受けました。右肺への転移も続きましたが、後の手術の腫瘍は小さく、5年10月

多くないと感じたことで、物を見ている力が深くなりました。花の香りや人の笑いなどが、私の心に染み通ってきます。がんになつたのが、中身の濃い人生を送っている気がします。



特別企画「医療現場での取り組み」

北陸がんプロが目指すもの、医療従事者とがん情報

並木 幹夫氏



がんプロ.comで 有益な情報を

がん患者で自分の受けている治療に納得している方はそれほど多くありません。がん難民と呼ばれ、問題になっています。原因には、がん医療の不足や、設備の整った医療機関の少なさが、がん情報の不足などがあります。

この状況を改善するため、国は2007年に「がん対策基本法」を施行し、がん医療の専門家の育成やがん情報提供体制の整備に財政的支援を行っています。北陸がんプロでは、こうした国の支援の

「がん」をテーマにしたウェブサイトを開設し、そこで医療従事者向けセミナー(オンライン)である「がんプロフェッショナル養成講座」を開催しています。

医師はがんと闘う同志

がん拠点病院をこ存じますか？

矢野 聖二氏

国ではがん対策の法目録として、2007年度からの10年間で、がんによる死亡者数を30%減らすこととすることをがん患者およびその家族の苦痛の軽減、医療生活の質の維持向上を掲げています。そのために、各地でがん診療連携拠点病院が、略して「がん拠点病院」と呼ばれています。これは、がん診療連携拠点病院が、がん診療連携拠点病院に指定されています。実は、これががん拠点病院には、保険診療でできる最高レベルの診療体制を確保していること、例えば、外来がん診療連携拠点病院が、がん診療連携拠点病院に指定されていること、セカンドオピニオンや緩和ケアの充実、がん相談室といった相談支援体制の設置が、がん情報の広報などもあつて、私たちががん診療連携拠点病院は、これらが最もがん治療を回す、県医師会も協力して、地域のがん患者さんのために尽くすつもりです。



拠点病院で 治療環境を向上

ンや緩和ケアの充実、がん相談室といった相談支援体制の設置が、がん情報の広報などもあつて、私たちががん診療連携拠点病院は、これらが最もがん治療を回す、県医師会も協力して、地域のがん患者さんのために尽くすつもりです。

セカンドオピニオンは重要です

医師の複数意見で納得と安心



西耕一氏
（石川市立中央病院 消化器科部長）

医師にはその本意を伝えているつもりでも不確実性を感じることがあります。病が心算も投与も患者を全責に担ぐわけではなく、副作用も伴います。そのため、患者さんが医師の理解できない治療方針に対する不安や疑問を感じることがあります。十分な説明を受けてから同意し、思いがけない副作用も発生しては困ります。

セカンドオピニオンの利用が主治医の機嫌を損ねないかと心配される方もありますが、がんは診断された患者さんの不安は決して少なくありません。十分な説明も必ず理解を示すことになるはずです。

私たちは共にがんを闘う同志です。自分が受ける治療への理解を深め、納得と安心を以てして治療に臨んでください。

セカンドオピニオンの利用が主治医の機嫌を損ねないかと心配される方もありますが、がんは診断された患者さんの不安は決して少なくありません。十分な説明も必ず理解を示すことになるはずです。

がん患者の増加とそれに伴うがん医療の解消を目的に施行された「がん対策推進法」は、がん地域連携クリティカルパス連携（ハス）を2011年度までに整備することを求めています。

地域医療連携に向けて



藤村隆氏
（金沢大学がん研究センター がん診療連携推進部長）

診療連携推進病院とつながり、医師の体制に合わせたかかりつけ医で、より最適ながんケアが期待できます。これから患者さん、ご家族、かかりつけ医、がん診療連携推進病院が「つながり」を築いていく必要があります。

患者に寄り添う医療へ

「いつでも最良のがん医療を受けるために」

病診連携に向けての取り組み



桐山正人氏
（金沢医療センター がん診療連携推進部長）

多くの方が、かかりつけ医から「がん」を知られた際、すぐ医療に関する悩みがあります。治療について、そのままかかりつけ医に相談すればいいのか、大きな病院に改めて行けばいいのか。患者さんのそうした悩みにお応えできるように、病院と診療所との連携を強化していきます。

また、金沢医療センター内に設けた開放病棟に入院された場合は、かかりつけ医も病棟に於いて診察したり、毎日のカルテも治療経過の要約を見ることが出来ます。身がかりつけ医ががん治療にどう向き合っているのか、患者さんへの安心につながります。

がん医療に望むこと―患者の立場から―



和田真由美氏
（患者の立場から）

不安や悩みに応える医療を



私は30代前半で白血病になり、いくつかで治療への不安、精神的、血液細胞移植を受けました。以て金銭的な問題、病院へ通院する前は、患者同士の交流を断りました。さまざまな悩みを相談することが出来ず、不安や悩みに応える医療を求めています。がん診療連携推進病院は「がん診療連携推進病院」として、患者さんへの不安や悩みに応える医療を求めています。

ITで安心の地域医療を実現



「和」がんに罹り、命の限りを感じた時はショックでしたが、病質をきっかけに生きることを深く考えるようになりました。命をよりよく使うことを自らの「使命」と受けとめ、自分でできることで社会に役立つことがあればという気持ちで活動の原動力になっています。

質疑応答

一人ががんで闘病中です。どのように接したいですか。
【和田】患者の立場から申し上げます。患者本人より家族の方がつらいたらうなと思います。気持ちを汲みつつ必要な手助けができるよう、寄り添いながら家族の中で話し合えるといいですね。

一人がセカンドオピニオンを希望しなくても、家族が主治医の治療方針に納得できない場合はセカンドオピニオンを求めざるを得ない場合があります。

【桐山】本人と家族で意見が食い違う場合は、もう一度、医師を交えて三者で話し合うことが大切だと思います。その中でどうしても意見が合わない、ほかのいい治療法があるということでしたら、その治療法を求めている医師にセカンドオピニオンを求めているというだけではいいではないでしょうか。

【西】禁煙、適正飲酒、肥満防止などです。治療が奏功し、肺がんが消えた。今後、気をつけるべきことは、
【矢野】かかりつけ医の指示に従って定期的な検査を受け、再発した場合の早期発見に努めることが重要です。

【鈴木】終末医療は近年、ケアの面を含めて進んでいます。このほか、疼痛管理、栄養管理といったがん治療と並行して行われる緩和医療も重要視されてきており、われわれもチーム医療の中で取り組んでいます。

【北陸がんプロフェッショナル養成プログラム】北陸におけるがん専門医の育成と、がん治療水準の底上げを目指し、金沢、富山、福井、金沢医科大学、石川県立看護大学の5大学が、大学院生や中級医師を対象に、がんに特化した共通教育を実施するもの。インターネットを活用し、一般向けに北陸の癌種に関する最新のがん治療情報も提供する。北陸3県に15ある「がん診療連携拠点病院」も協力する。

【主催】北陸がんプロフェッショナル養成プログラム（金沢大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）、石川県がん診療連携推進委員会、金沢大学がん研究所、NPO法人がん患者団体支援機構、NPO法人がんプロフェッショナル認定機構、石川県がん対策推進協議会、【協賛】石川県医師会、金沢市医師会、テレビ金沢